

清流の国ぎふ 防災・減災センター

第6回防災活動大賞

令和7年3月

センター長挨拶

センター長を仰せつかっております能島と申します。

清流の国ぎふ防災・減災センター 第6回防災活動大賞の選考会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

防災活動大賞は、清流の国ぎふ防災・減災センターが地域防災の普及啓発事業の一環として開催しているもので、地域における優れた防災活動を皆様と共有するとともに、センターから大賞を授与するものです。これまでの経過について申しますと、令和元年から開催しており、延べ団体数として 61 団体から発表があり、延べ数で 16 団体に防災活動大賞を授与させていただきました。また、特別賞を 7 団体に授与させていただきました。今年 1 月には、清流の国ぎふ防災・減災センター10 周年事業として防災活動大賞グランプリを開催し、これまでの防災活動大賞受賞者に呼びかけたところ、6 団体から応募をいただき、その内の 1 団体にグランプリ、3 団体に準グランプリを授与させていただきました。今回は第6回として応募を募ったところ、5 団体からの参加がありました。既に 61 件の応募がございましたので、今回で 66 件となりました。将来的には 3 桁も視野に入りつつあります。

本日のご参加の皆様は情報を共有し、それぞれの地区に持ち帰り、良いところを踏襲し、防災の輪を広げていただきたいと思います。

ご応募いただいた皆様、そして足下の悪い中、参加いただいた皆様に御礼申し上げて、挨拶とさせていただきます。

清流の国ぎふ 防災・減災センター長 能島 暢呂

副センター長挨拶

日頃より、皆様には、各地域で防災活動や普及啓発活動に取り組んでいただき、厚く御礼申し上げます。

去年は、能登半島地震が発生し、大きな被害が生じただけでなく、地震の傷跡が残る被災地をさらに豪雨が襲い、複合災害の発生に備えておかなければならないということを感じました。また、8月には南海トラフ地震臨時情報が初めて発令され、南海トラフ地震の発生がすぐそこまで迫っていると身を引き締めたところでもあります。

このように、大規模な災害がいつ起きてもおかしくない状況にあり、防災・減災への取組みが、いつにもまして重要となっています。

このため、平時から災害に備える「防災活動」を各地域で展開し、地域の方の防災意識を高め、防災・減災に取り組んでいくことが重要だと考えています。

今回で6回目となる「清流の国ぎふ 防災・減災センター 防災活動大賞」は、各地域における防災活動の参考としていただくため、県内で取り組まれている防災活動について広く募集し、表彰するものであり、皆様には、エントリーされた各地域の活動の中から、新たな発見や気づきを得ていただき、今後の活動に活かしてもらいたいと思います。

また、今回の防災活動大賞の主催者である「清流の国ぎふ 防災・減災センター」では、地域の防災リーダーとして活躍できる人材を育成する「清流の国ぎふ防災リーダー育成講座」を開催しているほか、地域の防災リーダーの交流の場となる「げんさい楽座」も開催するなどし、防災人材の育成やネットワーク化に取り組んでいます。

皆様にも、是非、こうした講座や交流の場に参加いただき、新たなネットワーク作りや防災知識の向上に役立てていただければ幸いに存じます。

それでは、本日はよろしく願いいたします。

清流の国ぎふ 防災・減災センター 副センター長 平野 孝之
(代理 岐阜県危機管理部次長 海蔵敏晃)

第4回防災活動大賞 実施概要

【 募集期間 】

2024年11月～2025年3月12日

【 応募対象 】

応募することのできる活動は、以下の（１）～（４）をすべて満たすこととします。

- （１）岐阜県内で取り組んでいる活動であること(頻度、回数は問いません)。
- （２）活動する者は団体、個人や公共、私的を問いません。
- （３）活動の結果が防災・減災に関する取り組み内容であること。(寄与のレベル、度合いや活動の難易度は問いません。間接的に防災・減災に関する取り組みであるケースも含みます。)
- （４）電子メールによる連絡及びファイルの送受信が可能であること（携帯電話会社が提供するメールアドレス以外の電子メールであること）。

【 公開選考会 】

- （１）冒頭に120秒ずつの自己紹介を発表者が行いました。
- （２）その後、ポスターセッション方式により活動の紹介を行いました。
- （３）これらを踏まえて、8名による投票を行いました。
- （４）また、清流の国ぎふ防災・減災センター関係者による選考を別室で行い「防災活動大賞」を2点選出しました。
- （５）上記選考で選出されなかった3団体の中で、上記「（３）」の上位1点を「みんなの特別賞」に選出しました。
- （６）当日のタイムスケジュールは以下の通り

開催日：2025年3月16日(日)

13:30	開会挨拶
13:40	タイムスケジュールと選考ルールの説明
13:45	発表者自己紹介
13:55	ポスター発表
14:25	投票・休憩
14:30	自由交流
15:00	表彰式
15:30	閉会

【 選考結果 】

選考の結果は以下の通りです。

《 防災活動大賞 》

以下2点を防災活動大賞としました。

(応募受付順に掲載)

わくわく防災ジュニアクラブ岐阜可児

わくわく防災プロジェクト KANI

～ミライの防災人材育成・中学部活動 地域化モデル～

土岐市肥田防災の会

地域の防災意識を高めるための挑戦

《 みんなの特別賞 》

以下1点を「みんなの特別賞」としました。

御嵩町上之郷の一匹狼[♂] 瀬瀬

親子で学び・考え・実行（教員も巻き込む）上之郷小学親子防災授業

当日の様子



発表者の皆様

わくわく防災ジュニアクラブ岐阜可児



土岐市肥田防災の会



御嵩町上之郷の一匹狼 罫 頼頼



受賞団体による説明の様子

応募作品一覧

(応募受付順に掲載)

団体	主な活動範囲	タイトル
① わくわく防災ジュニアクラブ 岐阜可児	可児市	わくわく防災プロジェクト KANI ～ミライの防災人材育成・中学部活動 地域化モデル～
② 防災ネットワークOSA (おさ)	垂井町表佐地区	地域住民のつながりを深める防災・減災活動
③ 小熊新生防災会	岐阜県羽島市 小熊地区	ゆっくりでいいから それを当たり前
④ 御嵩町上之郷の一匹狼 と 頼頼	可児郡御嵩町上之郷 小学校	親子で学び・考え・実行 (教員も巻き込む) 上之郷小学 親子防災授業
⑤ 土岐市肥田防災の会	土岐市 肥田町	地域の防災意識を高めるための挑戦

ポスター集

全5品のポスターを次ページ以降に収録します。



わくわく防災プロジェクトKANI

～ミライの防災人材育成・中学部活動 地域化モデル～



Instagram

【活動内容の特徴】

地域とつながる「防災クラブ」へチャレンジ！

- ◇わくわく、楽しく、つながる体験を通した学び
- ◇地域の多様な人とつながる活動を展開
- ◇中学部活動地域化で0から「防災クラブ」を設立
- ◇可児市部活動改革プラン、令和6年度モデル実施事業

【団体の紹介】

- ・可児市
- ・令和5年12月～現在(1年)
- ・メンバー12名
(中学生8 サポーター2 スタッフ2)
- ・ジュニア防災クラブ
(わくわく楽しく学ぶ防災クラブ)

【アピールしたい防災活動の成果】

市「ミライの防災人材育成システム」の一步を踏み出す！

- ◇防災に興味関心のある生徒の学びの居場所づくり
- ◇ミライの防災人材育成
- ◇市の防災力、防災教育へ提言
- ◇防災教育チャレンジプランを通し全国へ発信



【活動内容の詳細】

「気づき、きっかけ、心地よさ」を感じる時間と場所の共有！

- ◇設立 喫緊課題「ジュニア防災人材育成」(R5.12→R6.7)
中学部活動クラブ化 団体設立→全中学校に案内配布→募集

- ◇活動
 - 7・8月 備え・学ぶ
 - 9・10月 活動・体感
 - 11・12月 対話・交流
 - 1・2月 発表・発信

- ①地区センターの災害備蓄品 ゲーム
- ②市備蓄品 非常食・ランタンづくり
- ③防災キャンプ in可児 小学生支援
- ④7.15豪雨災害現場フィールドワーク
- ⑤防災アプリ体験 防災士になるために
- ⑥ワークショップ 地域の備え・対話
- ⑦被災地写真洗浄 能登ボランティア講話



- ◇連携・発信 「多方面・多様な方法」 可児市から全国へ
- <連携> 防災教育チャレンジプラン 学校 行政 諸団体
- <発信> Instagram 議会フリースピーチ イベント 回覧



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ◇ミライの防災人材育成の一步を踏み出す。
- ◇幅広い年齢層との「活動と対話」で、学びのプラス相互作用が生まれ、地域に貢献。
- 〔生徒の声〕
- 『学校ではやらないことを地域の方と交流と体験を通し楽しく学べた。高校に行ってもいいかしたい。この学びを周りに伝えていく。』

<参加者等から見た効果>

- ◇興味をもち、楽しみながら知れた、学べた。
- ◇中学生の意見から、刺激と元気を得た。
- 〔地域の大人の声〕
- 『中学生の皆さんと一緒に、危険な所を書き出し大変勉強になった。今後も、一緒に語り合い、学びたい。私の職業（放課後指導員見守り隊）にも、ぜひ活かしたい。』

地域住民のつながりを深める防災・減災活動

【活動内容の特徴】

防災活動リーダーの育成と防災対策の検討実践

- ①検討委員を対象に有識者によるリーダ研修
- ②私たちの防災ハンドブック作成、各家庭配布
- ③自主防災隊活動の手引きの改善、防災隊長配布
- ④避難所運営、机上訓練マニュアルの作成・改善
- ⑤各マニュアルに沿った防災訓練、机上訓練実施

【アピールしたい防災活動の成果】

検討委員、自主防災隊役員の防災技術・情報共有が図られた

- ①OSA検討委員対象のリーダー研修や防災検討、マニュアル改善
防災訓練などを通じて防災技術・情報共有・意識向上ができた。
- ②2年で交代する自主防災隊役員と定例化した防災訓練を通じて
防災技術・情報共有、地区の防災リーダー要員の増強ができた。



【活動内容の詳細】

防災リーダ研修と防災マニュアルに沿った防災訓練

- ①防災リーダー研修（11回/204名）、定例会議（毎月）
 - ・有識者による防災知識の研修
 - ・災害体験者、被災地支援者による体験談講話
- ②地域住民への情報提供と安否確認訓練
 - ・広報「ちさと」による防災情報提供（7回）
 - ・安否確認・表佐災害対策本部への報告訓練（美化デー）
 - ・防災啓発資料の配布、自宅の標高測定実演（文化祭）
- ③防災机上訓練（1回/12名）・机上訓練ツール（STAP-1）
- ④防災訓練（1回/24団体/102名）
 - ・避難所運営訓練（避難者受入れ、居住テント設営など）
 - ・消火栓からの放水訓練 ・非常食の炊き出し訓練
 - ・非常用トイレの作り方 ・通電火災防止（スイッチ断ボール）
 - ・ガラスの飛散防止対策 ・家具の耐震固定方法の実演
 - ・特設公衆電話利用の安否確認訓練（災害伝言ダイヤルなど）
 - ・自家発電機からのスマホ、パソコンへの充電訓練
 - ・防災マニュアル、非常持ち出し袋、ヘルプマークなどの展示



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ①定例防災訓練を通じ防災リーダーとしての技術向上、情報共有のみならず地域全体の「絆」が深まった。参加者は、OSA委員自主防災隊役員、消防団表佐分団、派出所垂井町、赤十字奉仕団、社会福祉協議会等
- ②地元企業や既存団体、地区外の防災団体と連携した防災検討活動ができつつある。

<参加者等から見た効果>

- ①防災訓練の参加、活動マニュアルにより他地区の防災対策の実施状況などを知ることができ防災対策に役立てきた。また、参加者との懇親が深まり交友が広がった。
- ②自主防災隊役員などが防災訓練に参加し防災リーダーとしての技術、心構え等ができ、地域の防災活動が活発になった。

ゆっくりでいいから それを当たり前

【活動内容の特徴】

地域とともに歩む地道な啓発活動

発足以来、小熊町自治委員会、小熊コミュニティセンターと一体となり活動を展開しております。発足当初は一気に駆け抜けましたが、地道が一番と地域に根差した活動を心がけています。

【アピールしたい防災活動の成果】

ゆっくりでいいからさらに前へ

外に対してアピールをするよりもまずは地域に根差した活動を展開し続けることが大事だと考えています。町のどなたでもその存在と活動が見えるように心がけて活動を展開しております。地道にやっていると、思わぬところから反響、そんな一例がコレ→



【活動内容の詳細】

訓練を日常に持ち込む

- ◆ 地域の防災訓練
 - 体験してもらう項目をより実践的に
 - ・ 浸水時の歩行体験、煙ハウス体験・・・
- ◆ 安否確認訓練の年2回の実施（無事です！タオル運動）
- ◆ 地域内の小学校の防災教育（学校との協働活動）
- ◆ 子ども会と共に防災まちあるき
 - ・ ママさん世代にも活動に参加してもらう
- ◆ 座学では常に自分ごととして考えてもらう
 - ・ 高度な知識は不要、とにかく考えてもらう
- ◆ 防災にまつわることは何でも取り入れる
 - ・ 障がい者とのコミュニケーション講座
 - ・ 家具転倒防止の支援
 - ・ 避難所配置ヘルプバンドナの作成
- ◆ 防災ハンドブックの制作・全戸配布
地区防災計画の策定・全戸配布



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ◆ より多くの方々への啓発には手を変え、品を変えしながら馴染みやすく取り組む。
- ◆ 実績がついてきたらお金はどこからか出てくるものである。
- ◆ 意外なところから反響がある。
→ 奈良県から視察団がやってきた!!

<参加者等から見た効果>

さてさて、皆さんはどう思っているのでしょうか？それは主催者側ではよく判りません。ただ、スーパーやまちかどで出会った町の人達が「次は何やるの？」と声掛けを頂けるのは浸透しつつある兆候かと。やらされている感はないようです。



親子で学び・考え・実行（教員も巻き込む）

上之郷小学校親子防災授業



御嵩町立上之郷小学校

【活動内容の特徴】

親子で考えて楽しく防災授業を！

全校生徒80人弱の小さな小学校で授業をするにあたり上之郷小学校校長先生・教頭先生からどのようなことをやりたいかを聞き取り、アイデアを提案。授業に向けて打合せを密に行い、参加者（生徒・保護者・各先生）が、楽しみながら学べるように取り組んでいる。

【アピールしたい防災活動の成果】

R6年度は学校に備えておく自助バックの大切さの再確認！！

前校長先生が赴任してきて、上之郷小学校の伝統であった学校に備える自助バックを廃止してしまったので、いかに自助バックが大切な物かを授業での題材とし、親子で考えていただいた。現校長先生に、すごく理解していただき即自助バックを復活させていただいた。

【団体の紹介】

- ・可児郡御嵩町上之郷小学校にて活動
- ・平成29年9月～(7年ほど)
- ・現在の会員人数1名
(実働人数1名/総人数1名)
- ・**アピールポイント**
親子で楽しく学び、災害に備える。

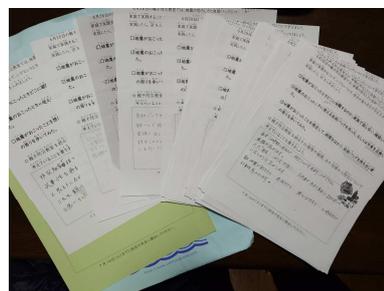
【活動内容の詳細】

自分の命は自分で守る

- 平成23年の集中豪雨で浸水被害を受けたことを契機に、上之郷小学校では家庭や地域と共に防災教育が継続して行われている。毎年1回親子防災の授業で、【家庭内DIG・備蓄の話・過去に身近なところで起った災害について、これから起るであろう災害について・ハザードマップの見方・自助バック作成のススメ】の話題提供。
- 楽しく学び、災害に備えるために何が必要か？
どのような知識があればいいか？
を親子で相談し、登下校を一緒にしている分団ごとに話し合ってもらい参加者全員でワイワイガヤガヤ考えを出し合ってもらい、発表していただき全体で共有してもらう。
- 授業で学んだ事の一部を宿題に出して、家族（祖父母）を巻き込み話し合ってもらい、共有された中で学校でできることや学校に必要な事があれば、教員が積極的に取り入れていただく。



- 親子防災授業で、災害は同じような場所で起こっている！
という言葉に共感した新任の教師が、その年の御嵩町防災アカデミーを受講し、無事に防災士取得した。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

全校生徒と保護者に参加していただけたので、総勢160人ほど。
1年生や2年生はわからない事が多く、上級生である4年生・5年生・6年生が上手に教えてくれるのがありがたい。
毎年保護者も一緒に考えてもらえるためこれまでに行った、ハザードマップの見かた地震が起こった場合の行動など災害に対する知識が少しずつ備わってきている。

<参加者等から見た効果> 参加者からの宿題より抜粋

- 防災の意識向上、なかなか準備できない自助バックや話し合いなど取り組むことができた。
- 自助バックに遊べる物、癒しになる物を入れておくのは考えていなかったため参考になった。
- 毎年この時期にあるので、防災リュックを見直す事ができるし、意識が高まります。
- 毎年似たような内容なので子ども達があまり真剣に話を聞いていないような気がします。

地域の防災意識を高めるための挑戦

【活動内容の特徴】

会員の専門知識を活かした取り組み

豊富な被災地支援活動経験者、地質の専門家、家庭の防災の備えに熟知した防災士などの知識と経験に富む会員を中心に、防災意識のまだ低い地域住民に対して子ども、地域住民、自治会など幅広い層に対する啓蒙活動に精力的に取り組んでいる。

【アピールしたい防災活動の成果】

地域の幅広い年齢層の住民の防災意識向上

- ・小学年の防災授業を通じて、防災意識の重要性を学ばせた。
- ・住民対象に防災講座を開催。地域の災害リスクとその備えを伝えた。
- ・町内最大の交流イベント（500人参加）で、防災啓蒙活動実施。
- ・自治会対象の防災訓練3回、自治会/行政/防災の会の意見交換会実施。
- ・オープンチャットを開設、地域防災ネットワーク作りに着手した。



【活動内容の詳細】

小学生への防災授業

小学4年生（50人）を対象に3回の防災授業を実施；「地域の自然災害リスク」を地形・地質・気象現象から学び、「災害図上訓練」は視認性のよいグーグルアースで行い、「防災倉庫の中身」を確認し実際に使ってみた。



グーグルアースで図上訓練



防災倉庫の学習

会員の経験・専門性を活かした防災講座

地域の自然災害の特性、被災生活の問題点、家庭の防災などを実演をまじえて住民に伝えた ※御岳山噴火時の避難行動等から正常性バイアスとは何かを伝えている（写真右）。



町民イベントでの啓蒙活動

非常食体験、トイレ体験、地震体験車、防災備品展示などを行った。参加者はこれらの体験を通じて防災の重要性を学んだ。なお、町民イベントの実行委員長は、本防災の会の会長が兼任しており、地域交流と防災活動の一体化も図っている。



防災食体験



簡易トイレ体験



地震体験車

<実施者から見た効果>

子供向けと大人向けの活動で、参加者の反応に違いを感じている。子供向けには手応えを感じた一方で、大人向けはまだ課題が多いと考えている。今後、大人向けの活動を改善するために、参加者の関心をもっと把握して、更に理解度を高めるための工夫に取り組んでいきたい。

<参加者等から見た効果>

参加者からは、防災・減災の取り組みの重要性が実感できた、各種イベントの継続的な開催を希望するなどの意見も多い。図上訓練や避難所訓練など、より実践的な訓練の開催を希望する声もあるので、今後の課題としたい。

審査委員長講評

センター長の能島でございます。

今回は対象として2件、みんなで選ぶ特別賞として1件を選びました。毎回感じるのですが、地域で一生懸命に取り組まれている団体を評価することは非常に難しいことです。

評価に当たっては、効果、継続性、協働性、再現性の観点で選びました。ただし、選ばれなかったから良くないという訳ではなく、それぞれの団体には参考になるポイントが多くあったと思います。本日の交流で得た情報、いろいろな問題とそれへの対応など、地域に持ち帰って活かしていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

清流の国ぎふ 防災・減災センター センター長 能島 暢呂